

## 宇都宮市立宝木小学校 第4学年 児童質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある」の肯定割合は90%と高く、県平均よりやや高かった。結果だけに目を向けるのではなく、学びの過程や頑張り、児童の意欲を認めてきた成果の表れと考えられる。途中で投げ出したり諦めたりしても、励ましたり一緒にやり方を考えたりして、達成感を味わうことができるような支援を行っていく。

○「自分には、よいところがあると思う」の肯定割合が79.1%で県の平均とほぼ同じであった。また、「自分のよさを人のために生かしたいと思う」の肯定割合が89.1%で、県平均より3.6ポイント高かった。自分のよさを周りから認められることで、友達の良さにも目を向けられるようになると思う。児童が自分のよさを発揮できるような役割や場を与えて自己肯定感を高めていくとともに、お互いのよさを大切にできるような学級づくりに努めていく。

●「ふだん(月～金曜)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやDVD、動画などを見たり、聞いたりしますか(テレビゲームはのぞく)」の質問では、「4時間以上」視聴している割合が県平均より8.8ポイント上回っており、視聴時間がとても長いことが分かる。一方で、「学校の授業時間以外に、ふだん(月～金曜)、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか」の質問では、30分以上1時間未満勉強している割合が、県平均より4.6ポイント下回った。さらに、「家で画学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の肯定割合が40ポイントで、県平均の肯定割合と比べて20.7ポイント低かった。本校は、4年生は50分以上の家庭学習時間を推奨しているが、この結果から、家庭学習の習慣が定着していない様子が見える。宝木小「家庭学習の進め方」を活用し、宿題に加えて自主学習を行う習慣を身に付けていけるようにする。予習・復習や自主学習の例を挙げたり参考になる児童のノートの例を掲示したりして家庭学習に対する意識を高めていけるよう、保護者と連携して指導していきたい。

●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」の肯定割合が45.4%に対し、県平均は52.3%であった。また、「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」の肯定割合が86.3%に対し、県平均は93.3%であった。このことから、話す・聞く力が弱いことが分かる。教室に掲示してある「聞き方あいうえお」「話し方かきくけこ」を活用することをはじめ、ねらいに応じた話す・聞く活動を取り入れ、繰り返し指導していく。